

科目ナンバリング		U-LAS00 10002 LJ34							
授業科目名 <英訳>	哲学II Philosophy II			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 貫井 隆				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限	木4		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
<p>本授業は、西洋哲学史の近現代の主要な流れの一つを、20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーの思想を視座として概観することを目的とする。</p> <p>哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。</p>									
[到達目標]									
西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。									
[授業計画と内容]									
以下のようなスケジュールで講義を行う予定である。									
第01回	イントロダクション 講義全体の趣旨・概要と成績評価などについての説明								
第02回	近代から現代へ：デカルト、カント、ヘーゲル								
第03回	近代から現代へ：キルケゴール、ニーチェ、フロイト								
第04回	ハイデガーの前期思想：『存在と時間』を中心に（1）								
第05回	ハイデガーの前期思想：『存在と時間』を中心に（2）								
第06回	ハイデガーの中期思想：「芸術作品の根源」を中心に（1）								
第07回	ハイデガーの中期思想：「芸術作品の根源」を中心に（2）								
第08回	ハイデガーの後期思想：「物」講演を中心に（1）								
第09回	ハイデガーの後期思想：「物」講演を中心に（2）								
第10回	フランス現代思想：デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス（1）								
第11回	フランス現代思想：デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス（2）								
第12回	フランス現代思想：デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス（3）								
第13回	思弁的実在論：グレアム・ハーマンを中心に（1）								
----- 哲学II(2)へ続く -----									

哲学II(2)

第14回 思弁的实在論：グレアム・ハーマンを中心に（2）

期末試験

第15回 フィードバック（期末試験についてのコメント）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小テスト40%と期末試験60%で評価する。

【教科書】

使用しない

講義ではその都度、レジュメ・資料などを配布する。

【参考書等】

（参考書）

千葉雅也 『現代思想入門』（講談社, 2022年）

Anthony Kenny 『A New History of Western Philosophy, vol. 1-4』（Oxford Univ Press, 2004）

伊藤邦武 『物語 哲学の歴史』（中公新書, 2012年）

熊野純彦 『西洋哲学史 近代から現代へ』（岩波新書, 2006年）

各自で予習・復習するために、有益な文献については、適宜、講義中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

【予習】については特に必要ないが、講義スケジュールは上に記したようなものなので、興味があれば各学者の生涯や時代背景について調べておくとよい。

【復習】としては、配布物・ノートをしっかりと見返し、講義で扱った著作などを適宜各自で読み、理解を深めておくこと。

【その他（オフィスアワー等）】

講義内容についての質問などは、講義前後の時間に直接教員まで。